

新潟県薬剤師会 薬剤師ボランティア活動報告書

班名	〇班	報告日	平成23年5月27日
報告者氏名	小見真吾	同行者氏名	佐藤先生・(水野先生:移動は別)
活動期間	5月20日 ~5月23日	宿泊場所	石巻仮事務所
活動拠点	石巻市 バイタルネット2階	ジャンプへの掲載	掲載してもよい・掲載を希望しない
交通手段	車		
主な活動 (簡潔に)	① 避難所へのOTCの配達 ② 避難所状況の確認・衛生環境の確認と指導		

<活動の内容>

【活動内容】

- ① 要望のあったOTCを各避難所に配達(無料でお渡し)、
- ② 避難所の状況確認(衛生環境・代表者とその連絡先の確認・避難者人数・OTCの管理状況・救護所の有無等々)です。

① に関して、4月上旬ではとにかくOTCを配れ配れという状況であったのに対し、5月下旬には必要な物資(OTC含む)はほぼ行き届いており、むやみに配ったりはしないようになっていました。開いているドラッグストアもあり、買える状況ができていたのであればそこで買ってもらい、街の復興につなげていく時期にきているからです。医療用医薬品についても同一であり、ボランティアの医療チームで処方され、調剤された場合は無料。調剤薬局でもらう場合は無料だが、保険請求できるので調剤薬局の利益になり、復興が進みます。そのため医療チームではなるべく院外処方にして、近くの薬局で薬をもらうように指示するようになってきています。別グループは日赤などの医療チームに加わり、調剤したり、近くにある、開いている薬局を調べたりしていました。そこにある薬は限られているため、できるだけDrの処方に近いものに代替し調剤します。

② に関して、特に夏場に向けて衛生環境が大切になります。今も水がでない地域はあり、その地域ではトイレ・ゴミ・害虫、食中毒、の状況は、悪い方向に向かうことが予想されます。事実、トイレに関しては、仮設トイレなので、汲み取り車が来なければ便はそこにそのままあるわけで、悪臭、ウジ、ハエ、の原因となります。しかし、どの避難所でも、この汲み取り要請は繰り返し行われるわけで、実際は要請してもすぐには来てくれません。問題を根本から解決することはできないけど、さらなる悪化を防ぐこと、そこでできる取り組みを模索することが現場での任務であると感じました。そして、現場で見たことを行政に訴えることが組織としての任務であると感じました。

【感想】

参加して思ったことは、1人では何もできないということです。実際、前任者からのバトンを受け取った時、自分も「最後に誰かにバトンを渡せるようにがんばろう」と思いました。きっと渡せたと思います。

ボランティアを通じて災害時の薬剤師の役割を体験できました。もしも地元が大変なことになったとき、自分にできることが増えました。

日本全国に仲間ができました。今ではグーグルグループでメールして、出会いを繋げています。みんないい人たちでした。長崎、岡山、高知などなど、遠いけどいつか再開する日が楽しみです。

バトンをつないで、継続的支援。人間の「忘れる」という能力は、つらい人のためのものであり、それ以外の人はしっかり覚えていないといけません。

今もなお大変な思いの中生きている人たちがいることを、自分も忘れないようにしています。